

必ず、注意事項を読んで報告書を作成してください。

「設置計画履行状況報告書」作成に係る全体の注意事項

提出いただいた報告書に基づき、調査を実施しますので、本報告書は「認可申請書」や「設置届出書」と同様に、事実在即して正確に記すようにお願いします。
なお、本報告書提出後、数値等に誤りがあっても原則差し替えは認めません。
提出前に今一度、誤りがないかを確認してください。

《提出方法》

1. 本報告は、各担当のメールアドレスにエクセルファイル、PDFファイルをそれぞれ1部添付して提出してください。
2. PDFファイルについては、全ページ通しページを付すとともに、表紙の次に目次を入れてください。

《作成方法》

1. 必ず報告年度用の最新の様式を使用して作成してください。
2. 本報告書は、設置計画について、認可又は届出時から報告年度までの履行状況を報告するための様式です。
3. 本報告書は、「設置区分」ごとに作成してください。
※「設置区分」とは、設置時の「基本計画書」の「計画の区分」（「学部設置」、「学部の学科設置」等）に記載した区分のことです。
4. 本報告書の全ての項目は、報告年度の5月1日現在で作成してください。
5. 様式中の項目にある注意事項は削除せず、記載したままにしてください。
※エクセルファイルのコメント機能で記載している注意事項等は提出時には削除してください。
6. 該当がない項目については様式を削除せず、「該当なし」と記載してください。
7. 教職大学院、専門職大学、専門職短期大学、専門職学科については、別様式の「補足説明資料」も作成してください。
8. 改元に伴う元号は、適宜更新ください。

大学番号 私立92

注3

設置年度 平成 30年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

東京医療保健大学 千葉看護学部 看護学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 青葉学園
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

チバジムフチョウ タケガミマサキ
千葉事務部長 竹上 昌毅

電話番号

047-495-7751

（夜間）

047-495-7751

e-mail

chiba-jimu@thcu.ac.jp

目次

千葉看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒273-8710 千葉県船橋市海神町西 1-1042-2
(〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和3年4月)	任期満了のため変更 令和3年4月1日(3)
学部長	(ミヤモト チヅコ) 宮本 千津子 (平成30年4月)		
学科長等	(ミヤモト チヅコ) 宮本 千津子 (平成30年4月)		

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
千葉看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	4年	100人	0人	400人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	()	()	100	(-)	100	(-)	100	(-)	100	(-)	1.10倍	倍	
志願者数	()	()	774	(-)	809	(-)	751	(-)	661	(-)			
受験者数	()	()	714	(-)	774	(-)	695	(-)	609	(-)			
合格者数	()	()	283	(-)	303	(-)	253	(-)	270	(-)			
B 入学者数	()	()	107	(-)	107	(-)	115	(-)	112	(-)			
入学定員超過率 B/A			1.07		1.07		1.15		1.12				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	107 [] ()	— [] ()	107 [—] (—)	— [—] (—)	115 [—] (—)	— [—] (—)	112 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次	/		0 [] ()	— [] ()	106 [—] (—)	— [—] (—)	107 [—] (—)	— [—] (—)	113 [—] (2)	— [—] (—)	
3 年次			/		0 [] ()	— [] ()	0 [—] (—)	— [—] (—)	106 [—] (—)	— [—] (—)	107 [—] (1)
4 年次	/				/		0 [—] (—)	— [—] (—)	0 [—] (—)	— [—] (—)	103 [—] (—)
計			[] ()	[—] (—)			107 [—] (—)	213 [—] (—)	328 [—] (—)	435 [—] (3)	

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	107 人	1 人	平成29年度	0 人	0 人	・学生個人の心身に関する事情(1人)
			平成30年度	1 人	0 人	
令和元年度	213 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	328 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	435 人	5 人	平成29年度	人	0 人	
			平成30年度	1 人	0 人	・進路変更(1人)
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	4 人	0 人	・進路変更(3人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和3年度	人	0 人	
合計		6 人		6 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \text{\#DIV/0!} \%$$

数式が入力されています。

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{107} = 0.93 \%$$

数式が入力されています。

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{213} = 0 \%$$

数式が入力されています。

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{328} = 0 \%$$

数式が入力されています。

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{435} = 1.14 \%$$

数式が入力されています。

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<千葉看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
いのち・人間の教育	心理学	1前	2									兼1
	哲学と宗教	1前	2									兼1
	文化人類学	1前	1									兼1
	生命倫理学	1後	1									兼1
	医療と人間	1後	1			1		3			2	
	コミュニケーション概論	1前	2									兼2
	経済学	2前	2									兼1
	社会学	1前	2									兼1
	教育学	1前	1									兼1
	国際関係論	2前	1									兼1
	認知科学	1後	1									兼1
	人間関係論	1後	1									兼1
	家族社会学	1後	1									兼1
	ダイバーシティ	1後	1									兼1
	生物	1前	1									兼1
	遺伝学	1後	1			1						
	データサイエンス	1前	2									兼1
	基礎数学	1前	1									兼1
	看護物理	1前	1			1		3			2	
	スポーツ科学	1後	1									兼1
	スポーツ実習	2前	1									兼1
	ボランティア論	2前	1									兼1
	ボランティア活動	2後	1									兼1
	英語講読・記述	1前	2									兼1
	英会話Ⅰ(ベーシックⅠ)	1前	2									兼1
	英会話Ⅱ(ベーシックⅡ)	1後	2									兼1
	英会話Ⅲ(アドバンス)	2前	2									兼1
	専門英語	3前	2									兼1
	中国語	1前	2									兼1
	ICTリテラシーⅠ(ベーシック)	1前	2									兼1
	ICTリテラシーⅡ(アドバンス)	1後	2									兼1
	情報通信と保健医療	2後	1									兼1
小計(32科目)	—	15	31	0	3	0	6	0	4			
専門職の教育	体の仕組みと働きⅠ(概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	1前	2									兼1
	体の仕組みと働きⅡ(骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系)	1後	2									兼1
	体の仕組みと働き演習	1後	1									兼1
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	栄養学総論	1後	2									兼1
	医療における質の保証Ⅰ(概論、医療安全)	2後	1					3			2	
	医療における質の保証Ⅱ(情報管理、感染制御)	3前	1					3			2	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
いのち・人間の教育	心理学	1前	2									兼1
	哲学と宗教	1前	2									兼1
	文化人類学	1前	1									兼1
	生命倫理学	1後	1									兼1
	医療と人間	1後	1			1		3			3	
	コミュニケーション概論	1前	2									兼2
	経済学	2前	2									兼1
	社会学	1前	2									兼1
	教育学	1前	1									兼1
	国際関係論	2前	1									兼1
	認知科学	1後	1									兼1
	人間関係論	1後	1									兼1
	家族社会学	1後	1									兼1
	ダイバーシティ	1後	1									兼1
	生物	1前	1									兼1
	遺伝学	1後	1			1						
	データサイエンス	1前	2									兼1
	基礎数学	1前	1									兼1
	看護物理	1前	1			1		3			3	
	スポーツ科学	1後	1									兼1
	スポーツ実習	2前	1									兼1
	ボランティア論	2前	1									兼1
	ボランティア活動	2後	1									兼1
	英語講読・記述	1前	2									兼4
	英会話Ⅰ(ベーシックⅠ)	1前	2									兼4
	英会話Ⅱ(ベーシックⅡ)	1後	2									兼4
	英会話Ⅲ(アドバンス)	2後	2									兼1
	専門英語	3前	2									兼1
	中国語	1前	2									兼1
	ICTリテラシーⅠ(ベーシック)	1前	2									兼1
	ICTリテラシーⅡ(アドバンス)	1後	2									兼1
	情報通信と保健医療	2後	1									兼1
小計(32科目)	—	15	31	0	3	0	6	0	6			
専門職の教育	体の仕組みと働きⅠ(概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	1前	2									兼1
	体の仕組みと働きⅡ(骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系)	1後	2									兼1
	体の仕組みと働き演習	1後	1									兼1
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	栄養学総論	1後	2									兼1
	医療における質の保証Ⅰ(概論、医療安全)	2後	1					3			3	
	医療における質の保証Ⅱ(情報管理、感染制御)	3前	1					3			3	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門支持	医学・医療概論	1前	1									兼1
	臨床薬理学	2前	2									兼1
	協働実践演習	4前	1			6	6	8	6	6		
	病原微生物学	1前	2									兼1
	病態生理学	1後	2									兼1
	治療学総論	1後	1									兼1
	疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅱ（骨格・筋・神経・内分泌・生殖系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅲ（感覚・免疫・消化器系）	2前	2									兼1
	生活健康科学	2前	2									兼1
	社会福祉論	2後	2									兼1
	保健医療福祉行政学	2後	2									兼1
	疫学・保健統計論	2前	2									兼1
	解剖生理学演習	3前	1									兼1
リラクゼーション論	1後	1									兼1	
医用機器概論	3前	1									兼1	
代替医療論	3前	1									兼1	
専門職の教育	看護学概論	1前	3			6	6	8	6	10		
	生涯発達ケア論	2前	2			4	3	3	4	4		
	終末期看護援助論	3前	2			5	2			4		
	基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1前	1			1		3		2		
	基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1後	1			1		3		2		
	基礎看護援助方法Ⅲ（治療を受ける患者の援助）	2前	1			3		4	2	3		
	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個性に応じた援助）	2後	1			3	1	5	2	4		
	基礎看護援助方法Ⅴ（基礎看護技術の統合）	3前	1			3		4	2	4		
	クリティカルシンキングⅠ（論理的思考の形成）	1前	1									兼1
	クリティカルシンキングⅡ（論理的思考の展開）	2前	1			1		3		3		
	クリティカルシンキングⅢ（批判的思考の発展）	3後	1			1	2		1	1		
	看護研究	4後	1			6	6	8	6	6		
	チーム活動論（チームビルディング）	3前	1			3	3					
	基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1後	1			1		3		3		
基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習）	2後	2			6	4	6	5	6			
機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	1前	2			1		3		2			
機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	2前	1			1		3		2			
機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	3後	1			1		3		2			

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門支持	医学・医療概論	1前	1									兼1
	臨床薬理学	2前	2									兼1
	協働実践演習	4前	1			6	6	8	5	10		
	病原微生物学	1前	2									兼2
	病態生理学	1後	2									兼1
	治療学総論	1後	1									兼1
	疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅱ（骨格・筋・神経・内分泌・生殖系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅲ（感覚・免疫・消化器系）	2前	2									兼2
	生活健康科学	2前	2									兼1
	社会福祉論	2後	2									兼1
	保健医療福祉行政学	2後	2									兼1
	疫学・保健統計論	2前	2									兼1
	解剖生理学演習	3前	1									兼1
リラクゼーション論	1後	1						1			兼1	
医用機器概論	3前	1									兼1	
代替医療論	3前	1									兼1	
専門職の教育	看護学概論	1前	3			6	6	10	5	11		
	生涯発達ケア論	2前	2			4	3	5	2	4		
	終末期看護援助論	3前	2			5	2			4		
	基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1前	1			1		3		3		
	基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1後	1			1		3		3		
	基礎看護援助方法Ⅲ（治療を受ける患者の援助）	2前	1			3		5	1	4		
	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個性に応じた援助）	2後	1			3	1	6	1	4		
	基礎看護援助方法Ⅴ（基礎看護技術の統合）	3前	1			3		5	1	4		
	クリティカルシンキングⅠ（論理的思考の形成）	1前	1									兼2
	クリティカルシンキングⅡ（論理的思考の展開）	2前	1			1		3		3		
	クリティカルシンキングⅢ（批判的思考の発展）	3後	1			1	2	1	1			
	看護研究	4後	1			6	6	8	5	10		
	チーム活動論（チームビルディング）	3前	1			3	3					
	基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1後	1			1		3		3		
基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習）	2後	2			6	4	8	3	10			
機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	1前	2			1		3		3			
機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	2前	1			1		3		3			
機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	3後	1			1		3		3			

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）	4後	1			1		3		2	
専門職の教育	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1	1	1		
	母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1	1	1		
	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1		1		
	小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1		1		
	母性・小児看護学実習	4前	5			2	2	1	2		
	臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護援助実習（急性期・慢性期）	3後	5			2		1	2	1	
	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2				1	1		2	
	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1				1	1		2	
	在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	1			1	1			2	
	在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	3前	1			1	1			2	
	老年・在宅看護学実習	4前	5			1	2	1		2	
	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2後	2				1	1	1	1	
	精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	3前	1				1	1	1	1	
	精神看護学実習	3後	3				1	1	1	1	
	公衆衛生看護援助論Ⅰ（対象別公衆衛生看護活動）	1後	2				1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3前		2			1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅲ（公衆衛生看護展開）	4前		3			1	1	1		
	保健指導演習	2後	1				1	1	1		
地域保健活動演習	2前	1				1	1	1			
公衆衛生看護学実習	4前		4			1	1	1			
養護概論	3前		2				1				
学校健康相談	3前		2				1				
学校保健Ⅰ	1後		1							兼1	
実践統合	地域保健・医療の推進	4後	1			1	2			3	
	国際看護論	1前		1		1					
	災害看護援助論	4前		1							兼1
	看護の統合実習	4後		2		1	1	4	1	2	
小計(72科目)			100	22	0	70	57	100	56	91	
養護教育	学校保健Ⅱ	1後		1							兼1
	教職への道	2前		2		1					
	教育原理	2前		1							兼1

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）	4後	1			1		3		3	
専門職の教育	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1	1	1		
	母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1	1	1		
	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1		1		
	小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1		1		
	母性・小児看護学実習	4前	5			2	2	1	2	1	
	臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2後	2			2			2	1	1
	臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2後	2			2			2	1	1
	臨床看護学実習（急性期・慢性期）	3後	5			2			2	1	1
	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2				1	1			3
	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1				1	1			3
	在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	1			1	1				3
	在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	3前	1			1	1				3
	老年・在宅看護学実習	4前	5			1	2	1			3
	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2後	2				1			2	1
	精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	3前	1				1			2	1
	精神看護学実習	3後	3				1			2	1
	公衆衛生看護援助論Ⅰ（対象別公衆衛生看護活動）	1後	2				1	1	1	1	1
	公衆衛生看護援助論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3前		2			1	1	1	1	1
	公衆衛生看護援助論Ⅲ（公衆衛生看護展開）	4前		3			1	1	1		
	保健指導演習	2後	1				1	1	1	1	1
地域保健活動演習	2前	1				1	1	1	1	1	
公衆衛生看護学実習	4前		4			1	1	1	1	1	
養護概論	3前		2				1				
学校健康相談	3前		2				1				
学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1後		1								兼1
実践統合	地域保健・医療の推進	4後	1			1	2				3
	国際看護論	1前		1		1	1				
	災害看護援助論	4前		1							兼1
	看護の統合実習	4後		2		1	1	3	1	10	
小計(72科目)			100	22	0	72	59	112	43	130	
養護教育	学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1後		1							兼1
	教職論	2前		2		1					
	教育原理	2前		1							兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
課程	教育心理学	2前		2							兼1
	教育制度論	2後		1		1					
教諭	教育課程論	2後		1							兼1
	教育方法論	2後		1							兼1
	道徳教育の理論と方法	3前		1							兼1
	生徒指導論	3後		2							兼1
	特別活動の指導法	3後		1							兼1
	学校教育相談	3前		2							兼1
	日本国憲法	3前		2							兼1
	養護実習事前・事後指導	4前後		1				1			
	養護実習	4前後		4				1			
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2				1			
	小計(15科目)	-	0	24	0	0	0	3	0	0	
合計(119科目)	-	115	77	0	73	57	109	56	95		
卒業要件及び履修方法											
必修科目115単位、選択科目から11単位以上を習得し、126単位以上習得すること。履修科目の登録の上限：44単位（年間）											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
課程	教育心理学	2前		2							兼2
	教育制度論	2後		1							兼1
養護教諭課程	特別支援教育の基礎	3前		1							兼1
	教育課程論	2後		1							兼2
	教育方法論	2後		1							兼1
	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1		1					
	生徒指導論	3後		1							兼1
	特別活動の指導法	3後		1							兼1
	学校教育相談	3前		2							兼1
	日本国憲法	3前		2							兼1
	養護実習事前・事後指導	4前後		1				1		1	
	養護実習	4前後		4				1		1	
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2				1		1	
小計(16科目)	-	0	24	0	0	0	3	0	0		
合計(120科目)	-	115	78	0	75	59	121	43	136		
卒業要件及び履修方法											
必修科目115単位、選択科目から11単位以上を習得し、126単位以上習得すること。履修科目の登録の上限：44単位（年間）											

<千葉看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
いのち・人間の教育	心理学	1前	2								兼1	
	哲学と宗教	1前		2							兼1	
	文化人類学	1前		1							兼1	
	生命倫理学	1後		1							兼1	
	医療と人間	1後		1		1		3		2	兼1	
	コミュニケーション概論	1前	2								兼2	
	経済学	2前		2							兼1	
	社会学	1前		2							兼1	
	教育学	1前		1							兼1	
	国際関係論	2前		1							兼1	
	認知科学	1後		1							兼1	
	人間関係論	1後		1							兼1	
	家族社会学	1後		1							兼1	
	ダイバーシティ	1後		1							兼1	
	生物	1前		1							兼1	
	遺伝学	1後		1		1					兼1	
	データサイエンス	1前	2								兼1	
	基礎数学	1前		1							兼1	
	看護物理	1前		1		1		3		2	兼1	
	スポーツ科学	1後		1							兼1	
	スポーツ実習	2前		1							兼1	
	ボランティア論	2前		1							兼1	
	ボランティア活動	2後		1							兼1	
英語講読・記述	1前		2							兼4		
英会話I (ベーシックI)	1前		2							兼4		
英会話II (ベーシックII)	1後		2							兼4		
英会話III (アドバンス)	2前		2							兼1		
専門英語	3前		2							兼1		
中国語	1前		2							兼1		
ICTリテラシーI (ベーシック)	1前		2							兼1		
ICTリテラシーII (アドバンス)	1後		2							兼1		
情報通信と保健医療	2後		1							兼1		
小計(32科目)			—	15	31	0	3	0	6	0	4	
専門職の教育	体の仕組みと働きI (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	1前		2							兼1	
	体の仕組みと働きII (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系)	1後		2							兼1	
	体の仕組みと働き実習	1後		1							兼1	
	公衆衛生学	1後		2							兼1	
	栄養学総論	1後		2							兼1	
	医療における質の保証I (概論、医療安全)	2後		1				3		2	兼1	
	医療における質の保証II (情報管理、感染制御)	3前		1				3		2	兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
いのち・人間の教育	心理学	1前	2								兼1	
	哲学と宗教	1前		2							兼1	
	文化人類学	1前		1							兼1	
	生命倫理学	1後		1							兼1	
	医療と人間	1後		1		1		3		2	兼1	
	コミュニケーション概論	1前	2								兼2	
	経済学	2前		2							兼1	
	社会学	1前		2							兼1	
	教育学	1前		1							兼1	
	国際関係論	2前		1							兼1	
	認知科学	1後		1							兼1	
	人間関係論	1後		1							兼1	
	家族社会学	1後		1							兼1	
	ダイバーシティ	1後		1							兼1	
	生物	1前		1							兼1	
	遺伝学	1後		1		1					兼1	
	データサイエンス	1前	2								兼1	
	基礎数学	1前		1							兼1	
	看護物理	1前		1		1		3		2	兼1	
	スポーツ科学	1後		1							兼1	
	スポーツ実習	2前		1							兼1	
	ボランティア論	2前		1							兼1	
	ボランティア活動	2後		1							兼1	
英語講読・記述	1前		2							兼4		
英会話I (ベーシックI)	1前		2							兼4		
英会話II (ベーシックII)	1後		2							兼4		
英会話III (アドバンス)	2前		2							兼1		
専門英語	3前		2							兼1		
中国語	1前		2							兼1		
ICTリテラシーI (ベーシック)	1前		2							兼1		
ICTリテラシーII (アドバンス)	1後		2							兼1		
情報通信と保健医療	2後		1							兼1		
小計(32科目)			—	15	31	0	3	0	6	0	4	
専門職の教育	体の仕組みと働きI (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	1前		2							兼1	
	体の仕組みと働きII (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系)	1後		2							兼1	
	体の仕組みと働き実習	1後		1							兼1	
	公衆衛生学	1後		2							兼1	
	栄養学総論	1後		2							兼1	
	医療における質の保証I (概論、医療安全)	2後		1				3		2	兼1	
	医療における質の保証II (情報管理、感染制御)	3前		1				3		2	兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門支持	医学・医療概論	1前	1								兼1
	臨床薬理学	2前	2								兼1
	協働実践演習	4前	1			6	6	8	6	6	
	病原微生物学	1前	2								兼1
	病態生理学	1後	2								兼1
	治療学総論	1後	1								兼1
	疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系）	2前	2								兼1
	疾病治療論Ⅱ（骨格・筋・神経・内分泌・生殖系）	2前	2								兼1
	疾病治療論Ⅲ（感覚・免疫・消化器系）	2前	2								兼1
	生活健康科学	2前		2							兼1
	社会福祉論	2後	2								兼1
	保健医療福祉行政学	2後	2								兼1
	疫学・保健統計論	2前	2								兼1
	解剖生理学演習	3前		1							兼1
	リラクゼーション論	1後		1							兼1
	医用機器概論	3前		1							兼1
代替医療論	3前		1							兼1	
専門職の教育	看護学概論	1前	3			6	6	8	6	10	
	生涯発達ケア論	2前	2			4	3	3	4	4	
	終末期看護援助論	3前	2			5	2			4	
	基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1前	1			1		3		2	
	基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1後	1			1		3		2	
	基礎看護援助方法Ⅲ（治療を受ける患者の援助）	2前	1			3		4	2	3	
	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個別性に応じた援助）	2後	1			3	1	5	2	4	
	基礎看護援助方法Ⅴ（基礎看護技術の統合）	3前	1			3		4	2	4	
	クリティカルシンキングⅠ（論理的思考の形成）	1前	1								兼1
	クリティカルシンキングⅡ（論理的思考の展開）	2前	1			1		3		3	
	クリティカルシンキングⅢ（批判的思考の発展）	3後	1			1	2		1	1	
	看護研究	4後	1			6	6	8	6	6	
	チーム活動論（チームビルディング）	3前	1			3	3				
	基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1後	1			1		3		3	
	基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習）	2後	2			6	4	6	5	6	
	機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	1前	2			1		3		2	
機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	2前	1			1		3		2		
機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	3後	1			1		3		2		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門支持	医学・医療概論	1前	1								兼1	
	臨床薬理学	2前	2								兼1	
	協働実践演習	4前	1					6	6	8	6	6
	病原微生物学	1前	2								兼2	
	病態生理学	1後	2								兼1	
	治療学総論	1後	1								兼1	
	疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系）	2前	2								兼1	
	疾病治療論Ⅱ（骨格・筋・神経・内分泌・生殖系）	2前	2								兼1	
	疾病治療論Ⅲ（感覚・免疫・消化器系）	2前	2								兼2	
	生活健康科学	2前		2							兼1	
	社会福祉論	2後	2								兼1	
	保健医療福祉行政学	2後	2								兼1	
	疫学・保健統計論	2前	2								兼1	
	解剖生理学演習	3前		1							兼1	
	リラクゼーション論	1後		1					1		兼1	
	医用機器概論	3前		1							兼1	
代替医療論	3前		1							兼1		
専門職の教育	看護学概論	1前	3			6	6	8	6	10		
	生涯発達ケア論	2前	2			4	3	3	4	4		
	終末期看護援助論	3前	2			5	2			4		
	基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1前	1			1		3		2		
	基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1後	1			1		3		2		
	基礎看護援助方法Ⅲ（治療を受ける患者の援助）	2前	1			3		4	2	3		
	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個別性に応じた援助）	2後	1			3	1	5	2	4		
	基礎看護援助方法Ⅴ（基礎看護技術の統合）	3前	1			3		4	2	4		
	クリティカルシンキングⅠ（論理的思考の形成）	1前	1								兼2	
	クリティカルシンキングⅡ（論理的思考の展開）	2前	1			1		3		3		
	クリティカルシンキングⅢ（批判的思考の発展）	3後	1			1	2		1	1		
	看護研究	4後	1			6	6	8	6	6		
	チーム活動論（チームビルディング）	3前	1			3	3					
	基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1後	1			1		3		3		
	基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習）	2後	2			6	4	6	5	6		
	機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	1前	2			1		3		2		
機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	2前	1			1		3		2			
機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	3後	1			1		3		2			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	機能看護学Ⅳ（トッ プマネジメント）	4後	1			1		3		2	
専門職の教育	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1	1	1		
	母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1	1	1		
	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1		1		
	小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1		1		
	母性・小児看護学実習	4前	5			2	2	1	2		
	臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護学実習（急性期・慢性期）	3後	5			2		1	2	1	
	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2				1	1		2	
	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1				1	1		2	
	在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	1			1	1			2	
	在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	3前	1			1	1			2	
	老年・在宅看護学実習	4前	5			1	2	1		2	
	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2後	2				1	1	1	1	
	精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	3前	1				1	1	1	1	
	精神看護学実習	3後	3				1	1	1	1	
	公衆衛生看護援助論Ⅰ（対象別公衆衛生看護活動）	1後	2				1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3前		2			1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅲ（公衆衛生看護展開）	4前		3			1	1	1		
	保健指導演習	2後	1				1	1	1		
地域保健活動演習	2前	1				1	1	1			
公衆衛生看護学実習	4前		4			1	1	1			
養護概論	3前		2					1			
学校健康相談	3前		2					1			
学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1後		1							兼1	
実践統合	地域保健・医療の推進	4後	1			1	2			3	
	国際看護論	1前		1		1					兼1
	災害看護援助論	4前		1							兼1
	看護の統合実習	4後		2		1	1	4	1	2	
	小計(72科目)	—	100	22	0	70	57	100	56	91	
養護教育	学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1後		1							兼1
	教職への道	2前		2		1					兼1
	教育原理	2前		1							兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	機能看護学Ⅳ（トッ プマネジメント）	4後	1			1		3		2	
専門職の教育	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1	1	1		
	母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1	1	1		
	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1		1		
	小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1		1		
	母性・小児看護学実習	4前	5			2	2	1	2		
	臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2後	2			1		1	2	1	
	臨床看護学実習（急性期・慢性期）	3後	5			2		1	2	1	
	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2				1	1		2	
	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1				1	1		2	
	在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	1			1	1			2	
	在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	3前	1			1	1			2	
	老年・在宅看護学実習	4前	5			1	2	1		2	
	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2後	2				1	1	1	1	
	精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	3前	1				1	1	1	1	
	精神看護学実習	3後	3				1	1	1	1	
	公衆衛生看護援助論Ⅰ（対象別公衆衛生看護活動）	1後	2				1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3前		2			1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅲ（公衆衛生看護展開）	4前		3			1	1	1		
	保健指導演習	2後	1				1	1	1		
地域保健活動演習	2前	1				1	1	1			
公衆衛生看護学実習	4前		4			1	1	1			
養護概論	3前		2					1			
学校健康相談	3前		2					1			
学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1後		1							兼1	
実践統合	地域保健・医療の推進	4後	1			1	2			3	
	国際看護論	1前		1		1					兼1
	災害看護援助論	4前		1							兼1
	看護の統合実習	4後		2		1	1	4	1	2	
	小計(72科目)	—	100	22	0	70	58	100	56	91	
養護教育	学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1後		1							兼1
	教職論	2前		2		1					兼1
	教育原理	2前		1							兼1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課程	教育心理学	2前		2								兼1
	教育制度論	2後		1								兼1
養護教諭課程	教育課程論	2後		1								兼2
	教育方法論	2後		1								兼1
	道徳教育の理論と方法	3前		1		1						
	生徒指導論	3後		2								兼1
	特別活動の指導法	3後		1								兼1
	学校教育相談	3前		2								兼1
	日本国憲法	3前		2								兼1
	養護実習事前・事後指導	4前後		1					1			
	養護実習	4前後		4					1			
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2					1			
小計(15科目)	-	0	24	0	0	0	3	0	0			
合計(119科目)	-	115	77	0	73	57	109	56	95			
卒業要件及び履修方法												
必修科目115単位、選択科目から11単位以上を習得し、126単位以上習得すること。履修科目の登録の上限：44単位（年間）												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課程	教育心理学	2前		2								兼1
	教育制度論	2後		1								兼1
養護教諭課程	特別支援教育の基礎	3前		1								兼1
	教育課程論	2後		1								兼2
	教育方法論	2後		1								兼1
	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1		1						
	生徒指導論	3後		1								兼1
	特別活動の指導法	3後		1								兼1
	学校教育相談	3前		2								兼1
	日本国憲法	3前		2								兼1
	養護実習事前・事後指導	4前後		1					1			
	養護実習	4前後		4					1			
教職実践演習（養護教諭）	4後		2					1				
小計(16科目)	-	0	24	0	0	0	3	0	0			
合計(120科目)	-	115	78	0	73	58	109	56	95			
卒業要件及び履修方法												
必修科目115単位、選択科目から11単位以上を習得し、126単位以上習得すること。履修科目の登録の上限：44単位（年間）												

<千葉看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
いのち・人間の教育	心理学	1前	2									兼1
	哲学と宗教	1前		2								兼1
	文化人類学	1前		1								兼1
	生命倫理学	1後		1								兼1
	医療と人間	1後		1		1		3			3	
	コミュニケーション概論	1前	2									兼2
	経済学	2前		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	教育学	1前		1								兼1
	国際関係論	2前		1								兼1
	認知科学	1後		1								兼1
	人間関係論	1後		1								兼1
	家族社会学	1後		1								兼1
	ダイバーシティ	1後		1								兼1
	生物	1前		1								兼1
	遺伝学	1後		1		1						
	データサイエンス	1前	2									兼1
	基礎数学	1前		1								兼1
	看護物理	1前		1		1		3			3	
	スポーツ科学	1後		1								兼1
	スポーツ実習	2前		1								兼1
	ボランティア論	2前		1								兼1
	ボランティア活動	2後		1								兼1
	英語講読・記述	1前	2									兼4
	英会話Ⅰ（ベーシックⅠ）	1前	2									兼4
	英会話Ⅱ（ベーシックⅡ）	1後	2									兼4
	英会話Ⅲ（アドバンス）	2後		2								兼1
	専門英語	3前		2								兼1
	中国語	1前		2								兼1
	ICTリテラシーⅠ（ベーシック）	1前	2									兼1
	ICTリテラシーⅡ（アドバンス）	1後		2								兼1
	情報通信と保健医療	2後		1								兼1
小計(32科目)	—	15	31	0	3	0	6	0	6			
専門職の教育	体の仕組みと働きⅠ（概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系）	1前	2									兼1
	体の仕組みと働きⅡ（骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系）	1後	2									兼1
	体の仕組みと働き演習	1後	1									兼1
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	栄養学総論	1後	2									兼1
	医療における質の保証Ⅰ（概論、医療安全）	2後	1					3			3	
	医療における質の保証Ⅱ（情報管理、感染制御）	3前	1					3			3	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門支持	医学・医療概論	1前	1									兼1
	臨床薬理学	2前	2									兼1
	協働実践演習	4前	1			6	6	9	4	10		
	病原微生物学	1前	2									兼2
	病態生理学	1後	2									兼1
	治療学総論	1後	1									兼1
	疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅱ（骨格・筋・神経・内分泌・生殖系）	2前	2									兼1
	疾病治療論Ⅲ（感覚・免疫・消化器系）	2前	2									兼2
	生活健康科学	2前		2								兼1
	社会福祉論	2後	2									兼1
	保健医療福祉行政学	2後	2									兼1
	疫学・保健統計論	2前	2									兼1
	解剖生理学演習	3前		1								兼1
リラクゼーション論	1後		1			1					兼1	
医用機器概論	3前		1								兼1	
代替医療論	3前		1								兼1	
専門職の教育	看護学概論	1前	3			6	6	10	4	11		
	生涯発達ケア論	2前	2			4	3	4	2	4		
	終末期看護援助論	3前	2			5	2			4		
	基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1前	1			1		3		3		
	基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1後	1			1		3		3		
	基礎看護援助方法Ⅲ（治療を受ける患者の援助）	2前	1			3		5	1	4		
	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個性に応じた援助）	2後	1			3	1	6	1	4		
	基礎看護援助方法Ⅴ（基礎看護技術の統合）	3前	1			3		5	1	4		
	クリティカルシンキングⅠ（論理的思考の形成）	1前	1									兼2
	クリティカルシンキングⅡ（論理的思考の展開）	2前	1			1		3		3		
	クリティカルシンキングⅢ（批判的思考の発展）	3後	1			1	2	1	1			
	看護研究	4後	1			6	6	9	4	10		
	チーム活動論（チームビルディング）	3前	1			3	3					
	基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1後	1			1		3		3		
	基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習）	2後	2			6	6	9	4	10		
	機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	1前	2			1		3		3		
	機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	2前	1			1		3		3		
機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	3後	1			1		3		3			

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）	4後		1		1		3			3	
専門職の教育	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1	1	1			
	母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1	1	1			
	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2			1	1					
	小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1			1	1					
	母性・小児看護学実習	4前	5			2	2	1	1			
	臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2後	2			2		2	1	1		
	臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2後	2			2		2	1	1		
	臨床看護学実習（急性期・慢性期）	3後	5			2		2	1	1		
	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	2				1	1				3
	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	3前	1				1	1				3
	在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2後	1			1	1					3
	在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	3前	1			1	1					3
	老年・在宅看護学実習	4前	5			1	2	1				3
	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2後	2				1	1	1	1		
	精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	3前	1				1	1	1	1		
	精神看護学実習	3後	3				1	1	1	1		
	公衆衛生看護援助論Ⅰ（対象別公衆衛生看護活動）	1後	2				1	1	1	1		1
	公衆衛生看護援助論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3前		2			1	1	1	1		1
	公衆衛生看護援助論Ⅲ（公衆衛生看護展開）	4前		3			1	1	1			
	保健指導演習	2後	1				1	1	1	1		1
	地域保健活動演習	2前	1				1	1	1	1		1
	公衆衛生看護学実習	4前		4			1	1	1	1		1
	養護概論	3前		2					1			
	学校健康相談	3前		2					1			
	学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1後		1								兼1
	実践統合	地域保健・医療の推進	4後	1			1	2				3
国際看護論		1前		1		1	1					
災害看護援助論		4前	1									兼1
看護の統合実習		4後	2			6	6	9	4	10		
	小計(72科目)		100	22	0	77	66	120	41	130		
養護教育	学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1後		1								兼1
	教職論	2前		2		1						
	教育原理	2前		1								兼1

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課程	教育心理学	2前		2								兼2
	教育制度論	2後		1								兼1
養護教諭課程	特別支援教育の基礎	3前		1								兼1
	教育課程論	2後		1								兼2
	教育方法論	2後		1								兼1
	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	3前		1		1						
	生徒指導論	3後		1								兼1
	特別活動の指導法	3後		1								兼1
	学校教育相談	3前		2								兼1
	日本国憲法	3前		2								兼1
	養護実習事前・事後指導	4前後		1				1			1	
	養護実習	4前後		4				1			1	
	教職実践演習(養護教諭)	4後		2				1			1	
	小計(16科目)	-	0	24	0	0	0	3	0	0		
合計(120科目)	-	115	78	0	80	66	129	41	136			
卒業要件及び履修方法												
必修科目115単位、選択科目から11単位以上を習得し、126単位以上習得すること。履修科目の登録の上限：44単位(年間)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 錯誤修整により、授業科目の名称を「臨床看護援助実習」から「臨床看護学実習」に変更。
- ・ 教職課程（養護教諭）認定申請時の文部科学省よりの指導により、授業科目の名称を「学校保健Ⅰ」から「学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）」に変更。
- ・ 教職課程（養護教諭）認定申請時の文部科学省よりの指導により、授業科目の名称を「学校保健Ⅱ」から「学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）」に変更。
- ・ 教職課程（養護教諭）認定申請時の文部科学省よりの指導により、教育制度論の担当教員を変更（専任⇒兼任）。
- ・ 英会話Ⅰ、Ⅱ、及び英語講読記述に兼任兼任教員を3名追加したため、「兼4」に変更。

【令和元年度】

- ・ 法改正による教職課程カリキュラム改定に対応するため、再課程認定申請において以下を申請。平成31年3月27日付で認定通知を受理。
- 科目新設：①特別支援教育の基礎
②道徳教育／総合的な学習の時間の指導法
- 科目廃止：道徳教育の理論と方法
- 単位数変更：生徒指導論 2単位 ⇒ 1単位
- ・ 上述の申請の際に文部科学省の指導に基づき、科目名変更：教職への道 ⇒ 教職論

【令和2年度】

該当なし

【令和3年度】

該当なし

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
67 科目	52 科目	0 科目	119 科目	67 科目 []	53 科目 [+1]	0 科目 []	120 科目 []	法改正に基づくカリキュラム変更があったため、平成31年4月に選択科目（養護教諭課程）「特別支援教育の基礎」を追加。

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	道德教育の理論と方法	1	3	一般	選択	平成31年度の法改正に伴う教職課程のプログラム変更を平成31年4月に実施。代替科目として「道德教育/総合的な学習の時間の指導法」を新設。
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・平成31年度の法改正に伴う教職課程のプログラム変更を平成31年4月に実施したもの。代替科目として「道德教育/総合的な学習の時間の指導法」を新設。H31年度入学生用のシラバスに記載して周知済み。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{119} = \boxed{0.84} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 ・ 錯誤による修整(R元) H30年度申請時に未施行 の校舎面積(完成年度ま でに施行予定)を誤って 算入していたため修整。 ・ 大学全体の定員増に伴 う校地等増 (R2) ・ 校舎敷地: 錯誤による 修正▲850㎡ (R3)					
	校 舎 敷 地	36,534 -37,384 -34,604 35,838 ㎡	0㎡	0㎡	36,534 -37,384 -34,604 35,838 ㎡						
	運 動 場 用 地	10,503㎡	0㎡	0㎡	10,503㎡						
	小 計	47,887 47,887 45,107 -46,341 ㎡	0㎡	0㎡	47,887 47,887 45,107 -46,341 ㎡						
	そ の 他	4,597-2,079 -4,598 ㎡	0㎡	0㎡	4,597-2,079 -4,598 ㎡						
	合 計	51,634 -52,484 -47,186 50,939 ㎡	0㎡	0㎡	51,634 -52,484 -47,186 50,939 ㎡						
(2) 校 舎	専 用	55,082 53,093 -45,800 50,970 ㎡	0㎡	0㎡	55,082 53,093 -45,800 50,970 ㎡	・ 大学全体の定員増に伴 う校地等増 (R2) ・ 校舎: 一部増築 +1,139㎡ (R3)					
	(55,082 53,093 -38,082 40,368 ㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(55,082 53,093 -38,082 40,368 ㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	10 6 室	演 習 室	19 14 室	実 験 実 習 室	9 4 室	情 報 処 理 学 習 施 設	2 1 室	語 学 学 習 施 設	0 室	(補助職員 0人) (補助職員 0人)
	新設学部等の名称		室 数		千 葉 看 護 学 部 看 護 学 科		29 22 室				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数		千 葉 看 護 学 部 看 護 学 科		29 22 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	電子ジャーナルは大 学全体での契約であ り、全キャンパスで 閲覧可能。			
	千 葉 看 護 学 部	21,796 [197] (21,402 [148]) -(20,087 [+25]) -(20,087 [85]) -(19,471 [81])	244 [30] (140 [32]) -(235 [22]) -(78 [2]) -(60 [5])	4,430 [2,949] 4,351 [2,909] 3,580 [2,240] 3,549 [2,240] (4,380) [2,899] -(4,331) -(2,889) (3,580) -(2,240) (3,549 [2,240])	257 (101) -(219) (166) (11)	938 (484)	46 (46)				
	計	21,796 [197] (21,402 [148]) -(20,087 [+25]) -(20,087 [85]) -(19,471 [81])	244 [30] (140 [32]) -(235 [22]) -(78 [2]) -(60 [5])	4,430 [2,949] 4,351 [2,909] 3,580 [2,240] 3,549 [2,240] (4,380) [2,899] -(4,331) -(2,889) (3,580) -(2,240) (3,549 [2,240])	257 (101) -(219) (166) (11)	938 (484)	46 (46)				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		取 納 可 能 冊 数		・ 座席数錯誤による修整 (R元)					
	428㎡	96 92席		31,580冊							
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				・ 錯誤による修整 (R元) ・ H30年度にはアリーナ以外の面 積も算入していたため修整す る (R元) ・ アリーナを含む体育館全床 面積 (R2)					
	2,016 774 1,232 ㎡										
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度				
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	400千円	400千円	図 書 購 入 費	10,000千円	15,000千円	15,000千円				
	共 同 研 究 費 等	7,000千円	7,000千円	設 備 購 入 費	40,000千円	25,000千円	25,000千円				
	学 生 1 人 当 り	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次				
	納 付 金	1,850千円	1,600千円	1,600千円	1,550千円	- 千円	- 千円				
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		私 立 大 学 経 常 経 費 補 助 金									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	東京医療保健大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医療保健学部		280	—	1,120		1.03	1.07				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.15	1.14		平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療栄養学科	4	100	—	400	学士(栄養学)	1.00	1.01		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.93	1.06		平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3	
東が丘・立川看護学部		200	—	800		—	—				令和2年度より募集停止
看護学科	4	200	—	800	学士(看護学)	—	—		平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
									平成28年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
東が丘看護学部		100	—	400							
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.19	1.22		令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
立川看護学部		100	—	400							
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.21	1.23		令和2年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市緑町3256	
千葉看護学部		100	—	400							
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.1	1.12		平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	
和歌山看護学部		90	—	360							
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.16	1.22		平成30年度	雄滝キャンパス 和歌山県和歌山市東坂ノ上1丁3番地 日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
大学院											
医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	25	—	50	修士(看護学/栄養学) (医療栄養学) (医療情報学) (看護学) (周手術医療安全学)	1.16	1.16		平成19年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
医療保健学専攻 (博士課程)	3	4	—	12	博士(医薬制御学) (周手術医療安全学)	1.63	2.50		平成21年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(看護学) (助産学)	0.99	1.03		平成25年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
看護学研究科 看護学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(成育看護学) (地域環境保健学)	1.45	1.17		平成26年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1	
和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(看護学)	1.00	1.00		令和2年度	日赤和歌山医療センターキャンパス 和歌山県和歌山市小松原通4-20	
千葉看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	1.13	1.13		令和3年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市海神町西1-1042-2	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
 ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	清水 準一 (43)
		<平成30年4月>
専	准教授	山本 由子 (57)
		<平成30年4月>
専	准教授	川村 牧子 (56)
		<平成30年4月>
専	准教授	伊藤 美千代 (50)
		<平成30年4月>
専	准教授	遠藤 亜貴子 (48)
		<平成31年4月>
専	准教授	田久保 由美子 (47)
		<平成31年4月>
専	准教授	加藤 星花 (42)
		<平成30年4月>
専	講師	愛川 由美子 (57)
		<平成32年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	清水 準一 (44)
		<平成30年4月>
専	准教授	山本 由子 (58)
		<平成30年4月>
専	准教授	川村 牧子 (57)
		<平成30年4月>
専	准教授	伊藤 美千代 (51)
		<平成30年4月>
専	准教授	遠藤 亜貴子 (49)
		<平成31年4月>
専	准教授	田久保 由美子 (48)
		<平成30年4月>
専	准教授	加藤 星花 (43)
		<平成30年4月>
専	講師	愛川 由美子 (58)
		<平成32年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	清水 準一 (45)
		<平成30年4月>
専	准教授	山本 由子 (59)
		<平成30年4月>
専	准教授	川村 牧子 (58)
		<平成30年4月>
専	准教授	伊藤 美千代 (52)
		<平成30年4月>
専	准教授	遠藤 亜貴子 (50)
		<平成31年4月>
専	准教授	田久保 由美子 (49)
		<平成30年4月>
専	准教授	加藤 星花 (44)
		<平成30年4月>
専	講師	愛川 由美子 (59)
		<平成32年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	清水 準一 (46)
		<平成30年4月>
専	准教授	山本 由子 (60)
		<平成30年4月>
専	准教授	川村 牧子 (59)
		<平成30年4月>
専	准教授	伊藤 美千代 (53)
		<平成30年4月>
専	准教授	遠藤 亜貴子 (51)
		<平成31年4月>
専	准教授	田久保 由美子 (50)
		<平成30年4月>
専	准教授	加藤 星花 (45)
		<平成30年4月>
専	講師	愛川 由美子 (60)
		<平成32年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	清水 準一 (47)
		<平成30年4月>
専	准教授	渡邊 幸子 (53)
		<令和3年4月>
専	准教授	川村 牧子 (60)
		<平成30年4月>
専	准教授	伊藤 美千代 (54)
		<平成30年4月>
専	准教授	遠藤 亜貴子 (52)
		<平成31年4月>
専	准教授	田久保 由美子 (51)
		<平成30年4月>
専	准教授	加藤 星花 (46)
		<平成30年4月>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		看護研究 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習
専	講師	鈴木 みゆき (48) <平成31年4月>
		養護概論 学校健康相談 養護実習事前・事後指導 養護実習 教職実践演習

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		看護研究 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習
専	講師	鈴木 みゆき (49) <平成31年4月>
		養護概論 学校健康相談 養護実習事前・事後指導 養護実習 教職実践演習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		看護研究 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習
専	講師	鈴木 みゆき (50) <平成31年4月>
		養護概論 学校健康相談 養護実習事前・事後指導 養護実習 教職実践演習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		看護研究 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習
専	講師	鈴木 みゆき (51) <平成31年4月>
		養護概論 学校健康相談 養護実習事前・事後指導 養護実習 教職実践演習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	片山 健浩 (34) <令和3年4月>
		協働実践演習 看護学概論 看護研究 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護学実習
専	講師	鈴木 みゆき (52) <平成31年4月>
		養護概論 学校健康相談 養護実習事前・事後指導 養護実習 教職実践演習

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	学長	医学・医療概論
兼任	講師	西山 幹枝 (41) <平成30年4月>
		英会話 I

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	学長	医学・医療概論
兼任	講師	西山 幹枝 (42) <平成30年4月>
		英会話 I

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	学長	医学・医療概論
兼任	講師	西山 幹枝 (43) <平成30年4月>
		英会話 I

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	学長	医学・医療概論
兼任	講師	西山 幹枝 (44) <平成30年4月>
		英会話 I

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	学長	医学・医療概論
兼任	講師	西山 幹枝 (45) <平成30年4月>
		英会話 I

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師		津村 宏 (62) <平成31年4月>
		情報通信と保健医療
兼任 講師		岩澤 篤郎 (55) <平成30年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		石井 美恵子 (54) <平成30年4月>
		災害看護援助論
兼任 講師		高野 海哉 (43) <平成30年4月>
		体の仕組みと働き演習 病態生理学 解剖生理学演習
兼任 講師		阿部 利恵 (46) <平成30年4月>
		心理学
兼任 講師		山本 伸裕 (47) <平成30年4月>
		哲学と宗教
兼任 講師		村田 良子 (46) <平成30年4月>
		文化人類学
兼任 講師		鶴若 麻理 (42) <平成30年4月>
		生命倫理学
兼任 講師		植垣 一彦 (69) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		大谷(水島) 佳子 (49) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		関口 博久 (47) <平成31年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師		瀧口美佳 (41) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		戸田博之 (61) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		何 欣霖 (27) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		津村 宏 (63) <平成31年4月>
		情報通信と保健医療
兼任 講師		岩澤 篤郎 (56) <平成30年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		石井 美恵子 (55) <平成30年4月>
		災害看護援助論
兼任 講師		高野 海哉 (44) <平成30年4月>
		体の仕組みと働き演習 病態生理学 解剖生理学演習
兼任 講師		阿部 利恵 (47) <平成30年4月>
		心理学
兼任 講師		山本 伸裕 (48) <平成30年4月>
		哲学と宗教
兼任 講師		村田 良子 (47) <平成30年4月>
		文化人類学
兼任 講師		鶴若 麻理 (43) <平成30年4月>
		生命倫理学
兼任 講師		植垣 一彦 (70) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		大谷(水島) 佳子 (50) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		関口 博久 (48) <平成31年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師		瀧口美佳 (42) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		戸田博之 (62) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		ピアノフスカ・マルタ (30) <平成31年4月>
		英会話 I
兼任 講師		津村 宏 (64) <平成31年4月>
		情報通信と保健医療
兼任 講師		岩澤 篤郎 (57) <平成30年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		菅原 えりさ (59) <平成31年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		石井 美恵子 (56) <平成30年4月>
		災害看護援助論
兼任 講師		高野 海哉 (45) <平成30年4月>
		体の仕組みと働き演習 病態生理学 解剖生理学演習
兼任 講師		阿部 利恵 (48) <平成30年4月>
		心理学
兼任 講師		山本 伸裕 (49) <平成30年4月>
		哲学と宗教
兼任 講師		村田 良子 (48) <平成30年4月>
		文化人類学
兼任 講師		鶴若 麻理 (44) <平成30年4月>
		生命倫理学
兼任 講師		植垣 一彦 (71) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		大谷(水島) 佳子 (51) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		関口 博久 (49) <平成31年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師		柳原 知樹 (54) <令和2年4月>
		英会話 I
兼任 講師		戸田 博之 (63) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		ピアノフスカ・マルタ (31) <平成31年4月>
		英会話 I
兼任 講師		津村 宏 (65) <平成31年4月>
		情報通信と保健医療
兼任 講師		岩澤 篤郎 (58) <平成30年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		菅原 えりさ (60) <平成31年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		石井 美恵子 (57) <平成30年4月>
		災害看護援助論
兼任 講師		高野 海哉 (46) <平成30年4月>
		体の仕組みと働き演習 病態生理学 解剖生理学演習
兼任 講師		阿部 利恵 (49) <平成30年4月>
		心理学
兼任 講師		山本 伸裕 (50) <平成30年4月>
		哲学と宗教
兼任 講師		村田 良子 (49) <平成30年4月>
		文化人類学
兼任 講師		鶴若 麻理 (45) <平成30年4月>
		生命倫理学
兼任 講師		藤井 毅彦 (52) <令和2年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		大谷(水島) 佳子 (52) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		関口 博久 (50) <平成31年4月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師		加藤 剛史 (26) <令和3年4月>
		英会話 I
兼任 講師		戸田 博之 (64) <平成30年4月>
		英会話 I
兼任 講師		津村 宏 (66) <平成31年4月>
		情報通信と保健医療
兼任 講師		岩澤 篤郎 (59) <平成30年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		菅原 えりさ (61) <平成31年4月>
		病原微生物学
兼任 講師		高木 晴良 (60) <令和3年4月>
		災害看護援助論
兼任 講師		高野 海哉 (47) <平成30年4月>
		体の仕組みと働き演習 病態生理学 解剖生理学演習 体の仕組みと働き I 体の仕組みと働き II
兼任 講師		阿部 利恵 (50) <平成30年4月>
		心理学
兼任 講師		山本 伸裕 (51) <平成30年4月>
		哲学と宗教
兼任 講師		村田 良子 (50) <平成30年4月>
		文化人類学
兼任 講師		鶴若 麻理 (46) <平成30年4月>
		生命倫理学
兼任 講師		藤井 毅彦 (53) <令和2年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		大谷(水島) 佳子 (53) <平成30年4月>
		コミュニケーション概論
兼任 講師		関口 博久 (51) <平成31年4月>

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		経済学
兼任	講師	藤間 公太 (30)
		<平成31年4月>
		社会学

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		経済学
兼任	講師	藤間 公太 (31)
		<平成31年4月>
		社会学

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		経済学
兼任	講師	鳥越 信吾 (33)
		<平成31年4月>
		社会学

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		経済学
兼任	講師	染谷 莉奈子 (28)
		<令和2年4月>
		社会学

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		経済学
兼任	講師	染谷 莉奈子 (29)
		<令和2年4月>
		社会学

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	米澤 朋英 (51) <平成30年4月>	教育学
兼任	講師	小池 政行 (65) <平成31年4月>	国際関係論
兼任	講師	阿部 廣二 (28) <平成30年4月>	認知科学
兼任	講師	岸 信行 (72) <平成30年4月>	人間関係論
兼任	講師	尾曲 美香 (27) <平成30年4月>	家族社会学 ダイバーシティ
兼任	講師	碓井 之雄 (65) <平成30年4月>	生物 栄養学総論
兼任	講師	荒木 隆一郎 (62) <平成30年4月>	データサイエンス 疫学・保健統計論
兼任	講師	金岡 秀和 (61) <平成30年4月>	基礎数学
兼任	講師	小泉 佳右 (41) <平成30年4月>	スポーツ科学 スポーツ実習
兼任	講師	齋藤 信夫 (67) <平成31年4月>	ボランティア論 ボランティア活動
兼任	講師	飯田 恭子 (73) <平成32年4月>	専門英語
兼任	講師	李克城 (54) <平成30年4月>	中国語
兼任	講師	小林 寿美 (66) <平成30年4月>	ICTリテラシーI ICTリテラシーII
兼任	講師	野清 明子 (53) <平成30年4月>	体の仕組みと働きI 体の仕組みと働きII
兼任	講師	大久保 豪 (35) <平成30年4月>	公衆衛生学
兼任	講師	大里 夏代 (59) <平成31年4月>	臨床薬理学
兼任	講師	横須賀 收 (66) <平成30年4月>	治療学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	米澤 朋英 (52) <平成30年4月>	教育学
兼任	講師	小池 政行 (66) <平成31年4月>	国際関係論
兼任	講師	阿部 廣二 (29) <平成30年4月>	認知科学
兼任	講師	岸 信行 (73) <平成30年4月>	人間関係論
兼任	講師	尾曲 美香 (28) <平成30年4月>	家族社会学 ダイバーシティ
兼任	講師	碓井 之雄 (66) <平成30年4月>	生物 栄養学総論
兼任	講師	荒木 隆一郎 (63) <平成30年4月>	データサイエンス 疫学・保健統計論
兼任	講師	金岡 秀和 (62) <平成30年4月>	基礎数学
兼任	講師	小泉 佳右 (42) <平成30年4月>	スポーツ科学 スポーツ実習
兼任	講師	齋藤 信夫 (68) <平成31年4月>	ボランティア論 ボランティア活動
兼任	講師	飯田 恭子 (74) <平成32年4月>	専門英語
兼任	講師	李克城 (55) <平成30年4月>	中国語
兼任	講師	小林 寿美 (67) <平成30年4月>	ICTリテラシーI ICTリテラシーII
兼任	講師	野清 明子 (54) <平成30年4月>	体の仕組みと働きI 体の仕組みと働きII
兼任	講師	大久保 豪 (36) <平成30年4月>	公衆衛生学
兼任	講師	横須賀 收 (67) <平成31年4月>	臨床薬理学
兼任	講師	横須賀 收 (67) <平成30年4月>	治療学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	米澤 朋英 (53) <平成30年4月>	教育学
兼任	講師	小池 政行 (67) <平成31年4月>	国際関係論
兼任	講師	阿部 廣二 (30) <平成30年4月>	認知科学
兼任	講師	岸 信行 (74) <平成30年4月>	人間関係論
兼任	講師	尾曲 美香 (29) <平成30年4月>	家族社会学 ダイバーシティ
兼任	講師	碓井 之雄 (67) <平成30年4月>	生物 栄養学総論
兼任	講師	荒木 隆一郎 (64) <平成30年4月>	データサイエンス 疫学・保健統計論
兼任	講師	金岡 秀和 (63) <平成30年4月>	基礎数学
兼任	講師	小泉 佳右 (43) <平成30年4月>	スポーツ科学 スポーツ実習
兼任	講師	齋藤 信夫 (69) <平成31年4月>	ボランティア論 ボランティア活動
兼任	講師	飯田 恭子 (75) <平成32年4月>	専門英語
兼任	講師	李克城 (56) <平成30年4月>	中国語
兼任	講師	横根 陽子 (50) <平成31年4月>	ICTリテラシーI ICTリテラシーII
兼任	講師	野清 明子 (55) <平成30年4月>	体の仕組みと働きI 体の仕組みと働きII
兼任	講師	大久保 豪 (37) <平成30年4月>	公衆衛生学
兼任	講師	横須賀 收 (68) <平成31年4月>	臨床薬理学
兼任	講師	横須賀 收 (68) <平成30年4月>	治療学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	米澤 朋英 (54) <平成30年4月>	教育学
兼任	講師	小池 政行 (68) <平成31年4月>	国際関係論
兼任	講師	阿部 廣二 (31) <平成30年4月>	認知科学
兼任	講師	岸 信行 (75) <平成30年4月>	人間関係論
兼任	講師	黒川 すみれ (30) <令和2年4月>	家族社会学 ダイバーシティ
兼任	講師	碓井 之雄 (68) <平成30年4月>	生物 栄養学総論
兼任	講師	荒木 隆一郎 (65) <平成30年4月>	データサイエンス 疫学・保健統計論
兼任	講師	金岡 秀和 (64) <平成30年4月>	基礎数学
兼任	講師	小泉 佳右 (44) <平成30年4月>	スポーツ科学 スポーツ実習
兼任	講師	齋藤 信夫 (70) <平成31年4月>	ボランティア論 ボランティア活動
兼任	講師	飯田 恭子 (76) <平成32年4月>	専門英語
兼任	講師	李克城 (57) <平成30年4月>	中国語
兼任	講師	横根 陽子 (51) <平成31年4月>	ICTリテラシーI ICTリテラシーII
兼任	講師	野清 明子 (56) <平成30年4月>	体の仕組みと働きI 体の仕組みと働きII
兼任	講師	大久保 豪 (38) <平成30年4月>	公衆衛生学
兼任	講師	横須賀 收 (69) <平成31年4月>	臨床薬理学
兼任	講師	横須賀 收 (69) <平成30年4月>	治療学総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	米澤 朋英 (55) <平成30年4月>	教育学
兼任	講師	小池 政行 (69) <平成31年4月>	国際関係論
兼任	講師	阿部 廣二 (32) <平成30年4月>	認知科学
兼任	講師	岸 信行 (76) <平成30年4月>	人間関係論
兼任	講師	黒川 すみれ (31) <令和2年4月>	家族社会学 ダイバーシティ
兼任	講師	碓井 之雄 (69) <平成30年4月>	生物 栄養学総論
兼任	講師	荒木 隆一郎 (66) <平成30年4月>	データサイエンス 疫学・保健統計論
兼任	講師	金岡 秀和 (65) <平成30年4月>	基礎数学
兼任	講師	小泉 佳右 (45) <平成30年4月>	スポーツ科学 スポーツ実習
兼任	講師	齋藤 信夫 (71) <平成31年4月>	ボランティア論 ボランティア活動
兼任	講師	飯田 恭子 (77) <平成32年4月>	専門英語
兼任	講師	李克城 (58) <平成30年4月>	中国語
兼任	講師	横根 陽子 (52) <平成31年4月>	ICTリテラシーI ICTリテラシーII
兼任	講師	大久保 豪 (39) <平成30年4月>	公衆衛生学
兼任	講師	横須賀 收 (69) <平成31年4月>	臨床薬理学
兼任	講師	横須賀 收 (69) <平成30年4月>	治療学総論
兼任	講師	今井 量 (57) <令和3年4月>	臨床薬理学

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山口 武人 (66) <令和3年4月> 治療学総論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	深澤 元晴 (54) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	山下 桂志 (49) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	加藤 佳瑞紀 (49) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	藤村 明子 (58) <平成31年4月>
		生活健康科学
兼任	講師	多賀 努 (55) <平成31年4月>
		社会福祉論
兼任	講師	小野 喜志雄 (61) <平成31年4月>
		保健医療福祉行政学
兼任	講師	黒田 眞理子 (66) <平成30年4月>
		リラクゼーション論
兼任	講師	加納 隆 (67) <平成31年4月>
		医用機器概論
兼任	講師	東郷 俊宏 (50) <平成32年4月>
		代替医療論
兼任	講師	米田 和美 (67) <平成30年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	江津 和也 (42) <平成31年4月>
		教育原理
兼任	講師	浅田 学 (68) <平成31年4月>
		教育心理学
兼任	講師	和井田 清司 (65) <平成31年4月>
		教育方法論 教育課程論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	深澤 元晴 (55) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	山下 桂志 (49) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	加藤 佳瑞紀 (50) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	横須賀 収 (67) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	藤村 明子 (59) <平成31年4月>
		生活健康科学
兼任	講師	多賀 努 (56) <平成31年4月>
		社会福祉論
兼任	講師	小野 喜志雄 (62) <平成31年4月>
		保健医療福祉行政学
兼任	講師	黒田 眞理子 (67) <平成30年4月>
		リラクゼーション論
兼任	講師	加納 隆 (68) <平成31年4月>
		医用機器概論
兼任	講師	東郷 俊宏 (51) <平成32年4月>
		代替医療論
兼任	講師	米田 和美 (68) <平成30年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	中山 幸夫 (62) <平成31年4月>
		教育原理
兼任	講師	岩田 美保 (50) <平成31年4月>
		教育心理学
兼任	講師	和井田 清司 (66) <平成31年4月>
		教育方法論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	深澤 元晴 (56) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	山下 桂志 (50) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	加藤 佳瑞紀 (52) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	横須賀 収 (68) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	藤村 明子 (60) <平成31年4月>
		生活健康科学
兼任	講師	多賀 努 (57) <平成31年4月>
		社会福祉論
兼任	講師	小野 喜志雄 (63) <平成31年4月>
		保健医療福祉行政学
兼任	講師	二神 眞理子 (41) <平成31年4月>
		リラクゼーション論
兼任	講師	加納 隆 (69) <平成31年4月>
		医用機器概論
兼任	講師	東郷 俊宏 (52) <平成32年4月>
		代替医療論
兼任	講師	米田 和美 (69) <平成30年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	村杉 豊志子 (66) <平成31年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	中山 幸夫 (63) <平成31年4月>
		教育原理
兼任	講師	岩田 美保 (51) <平成31年4月>
		教育心理学
兼任	講師	和井田 清司 (67) <平成31年4月>
		教育方法論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	深澤 元晴 (57) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	山下 桂志 (51) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	加藤 佳瑞紀 (53) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	横須賀 収 (69) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	藤村 明子 (61) <平成31年4月>
		生活健康科学
兼任	講師	多賀 努 (58) <平成31年4月>
		社会福祉論
兼任	講師	小野 喜志雄 (64) <平成31年4月>
		保健医療福祉行政学
兼任	講師	二神 眞理子 (42) <平成31年4月>
		リラクゼーション論
兼任	講師	加納 隆 (70) <平成31年4月>
		医用機器概論
兼任	講師	東郷 俊宏 (53) <平成32年4月>
		代替医療論
兼任	講師	米田 和美 (70) <平成30年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	村杉 豊志子 (67) <平成31年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	中山 幸夫 (64) <平成31年4月>
		教育原理
兼任	講師	岩田 美保 (52) <平成31年4月>
		教育心理学
兼任	講師	和井田 清司 (68) <平成31年4月>
		教育方法論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	深澤 元晴 (58) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅰ
兼任	講師	山下 桂志 (52) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	加藤 佳瑞紀 (53) <平成31年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	山口 真人 (66) <令和3年4月>
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	藤村 明子 (62) <平成31年4月>
		生活健康科学
兼任	講師	多賀 努 (59) <平成31年4月>
		社会福祉論
兼任	講師	小野 喜志雄 (65) <平成31年4月>
		保健医療福祉行政学
兼任	講師	二神 眞理子 (43) <平成31年4月>
		リラクゼーション論
兼任	講師	加納 隆 (71) <平成31年4月>
		医用機器概論
兼任	講師	東郷 俊宏 (54) <平成32年4月>
		代替医療論
兼任	講師	米田 和美 (71) <平成30年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	村杉 豊志子 (68) <平成31年4月>
		クリティカルシンキングⅠ
兼任	講師	上野 正道 (47) <令和3年4月>
		教育原理
兼任	講師	岩田 美保 (53) <平成31年4月>
		教育心理学
兼任	講師	和井田 清司 (69) <平成31年4月>
		教育方法論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	市川洋子 (60) <平成31年4月>
		教育課程論
兼任	講師	上野正道 (44) <平成31年4月>
		教育課程論

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	市川洋子 (61) <平成31年4月>
		教育課程論
兼任	講師	上野正道 (45) <平成31年4月>
		教育課程論

【令和2年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	市川洋子 (62) <平成31年4月>
		教育課程論
兼任	講師	上野正道 (46) <平成31年4月>
		教育課程論

【令和3年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	市川洋子 (63) <平成31年4月>
		教育課程論
兼任	講師	上野正道 (47) <平成31年4月>
		教育課程論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任 講師	齋藤 道子 (59) <平成32年4月>	道徳教育の理論と方法
		道徳教育の理論と方法
兼任 講師	齋藤 雅英 (51) <平成32年4月>	生徒指導論 学校教育相談
		生徒指導論 学校教育相談
兼任 講師	小谷 彰吾 (64) <平成32年4月>	特別活動の指導法
		特別活動の指導法
兼任 講師	大林 啓吾 (38) <平成32年4月>	日本国憲法
		日本国憲法
兼任 講師	工藤 宣子 (55) <平成30年4月>	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
		学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
兼任 講師	ハウエル エヴァンス (60) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	小倉 雅明 (27) <平成31年4月>	英会話Ⅲ
		英会話Ⅲ
兼任 講師	瀧口 美佳 (40) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	西山幹枝 (42) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	戸田博之 (61) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任 教授	齋藤 道子 (60) <平成32年4月>	道徳教育の理論と方法
		道徳教育の理論と方法
兼任 講師	齋藤 雅英 (52) <平成32年4月>	生徒指導論 学校教育相談
		生徒指導論 学校教育相談
兼任 講師	小谷 彰吾 (65) <平成32年4月>	特別活動の指導法
		特別活動の指導法
兼任 講師	大林 啓吾 (39) <平成32年4月>	日本国憲法
		日本国憲法
兼任 講師	工藤 宣子 (56) <平成30年4月>	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
		学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
兼任 講師	西山幹枝 (42) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	瀧口美佳 (41) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (61) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	何 欣溪 (27) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	小倉 雅明 (28) <平成31年4月>	英会話Ⅲ
		英会話Ⅲ
兼任 講師	瀧口 美佳 (41) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	西山幹枝 (42) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	戸田博之 (61) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任 教授	齋藤 道子 (61) <平成32年4月>	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
		道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
兼任 講師	齋藤 雅英 (53) <平成32年4月>	生徒指導論 学校教育相談
		生徒指導論 学校教育相談
兼任 講師	小谷 彰吾 (66) <平成32年4月>	特別活動の指導法
		特別活動の指導法
兼任 講師	大林 啓吾 (40) <平成32年4月>	日本国憲法
		日本国憲法
兼任 講師	工藤 宣子 (57) <平成30年4月>	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
		学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
兼任 講師	西山幹枝 (43) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	瀧口美佳 (42) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (62) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	ピアノフスカ・マルタ (30) <平成31年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (62) <平成31年4月>	英会話Ⅲ
		英会話Ⅲ
兼任 講師	瀧口 美佳 (42) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	西山幹枝 (43) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	戸田博之 (62) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任 教授	齋藤 道子 (62) <平成32年4月>	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
		道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
兼任 講師	齋藤 雅英 (55) <平成32年4月>	生徒指導論 学校教育相談
		生徒指導論 学校教育相談
兼任 講師	布施 梓 (37) <令和2年4月>	特別活動の指導法
		特別活動の指導法
兼任 講師	大林 啓吾 (41) <平成32年4月>	日本国憲法
		日本国憲法
兼任 講師	工藤 宣子 (58) <平成30年4月>	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
		学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
兼任 講師	西山幹枝 (44) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	柳原 知樹 (54) <令和2年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (63) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	ピアノフスカ・マルタ (31) <平成31年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	西山幹枝 (44) <令和2年4月>	英会話Ⅲ
		英会話Ⅲ
兼任 講師	柳原 知樹 (54) <令和2年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	西山幹枝 (44) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	戸田博之 (63) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任 教授	齋藤 道子 (63) <平成32年4月>	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
		道徳教育/総合的な学習の時間の指導法
兼任 講師	齋藤 雅英 (55) <平成32年4月>	生徒指導論 学校教育相談
		生徒指導論 学校教育相談
兼任 講師	布施 梓 (38) <令和2年4月>	特別活動の指導法
		特別活動の指導法
兼任 講師	大林 啓吾 (42) <平成32年4月>	日本国憲法
		日本国憲法
兼任 講師	荻津 真理子 (60) <令和3年4月>	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
		学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
兼任 講師	藤野 博 (58) <平成33年4月>	特別支援教育の基礎
		特別支援教育の基礎
兼任 講師	西山幹枝 (44) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	柳原 知樹 (54) <令和2年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (64) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	加藤 剛史 (26) <令和3年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	戸田博之 (64) <平成30年4月>	英会話Ⅱ
		英会話Ⅱ
兼任 講師	柳原 知樹 (54) <令和2年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	加藤 剛史 (26) <令和3年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	西山幹枝 (45) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述
兼任 講師	戸田博之 (64) <平成30年4月>	英語講義・記述
		英語講義・記述

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	何 欣瑛 (27) <平成30年4月>
		英語講義・記述

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	ピアノフスカ・マルタ (30) <平成31年4月>
		英語講義・記述

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	ピアノフスカ・マルタ (31) <平成31年4月>
		英語講義・記述

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	韓 アラン (30) <令和3年4月>
		英語講義・記述

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 専任教員に関する変更
- ・助教：小野治子 体調不良による就任辞退。もともと一人で担当している科目は無く、同科目の科目責任者を含めた専任教授等に変更は無いため、授業実施に問題は無い。
 - ・准教授：田久保由美子の就任年月をH31年4月から、H30年4月に前倒し就任。
- 兼任・兼任教員に関する変更
- ・教育制度論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を変更。
 - ・教育原理：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を変更。
 - ・教育心理学：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を変更。
 - ・教育課程論：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を変更かつ1名追加して2名にて担当。
 - ・道徳教育の理論と方法：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任講師として採用予定であった教員（齋藤道子）を専任教授として採用。
 - ・臨床薬理学：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を変更。
 - ・疾病治療論Ⅲ：養護教諭課程申請時の文部科学省よりの指導により、兼任教員を追加。
 - ・災害看護援助論：兼任教員の本務校変更により、同一教員を兼任教員に変更。
 - ・英会話Ⅰ：兼任教員を3名追加し、4クラスに分けて対応
 - ・英会話Ⅱ：兼任教員を変更、且つ、兼任教員を3名追加し4クラスに分けて対応
 - ・英語購読・記述：兼任教員を3名追加、4クラスに分けて対応

【令和元年度】

- 専任教員に関する変更
- ・教職課程の再課程認定申請において文部科学省より指導を受け科目名を「教職への道」から「教職論」に変更。
 - ・教授：篠木絵理の担当科目に「遺伝学」を追加。同教授がH30年度に兼任（講師）として担当していた科目。同氏がH31年4月に予定通り専任（教授）として着任したため、専任教員としての担当科目を追加。
 - ・リラクゼーション論を担当していた兼任講師が本人都合による辞退申出があったため、専任准教授（加藤星花）と、新たに採用した兼任講師（後述）にて授業を行う。
 - ・藤巻郁朗は、当初、助教として就任予定であったが、教育研究業績を評価し、H31年4月に講師として就任。
- 兼任・兼任教員に関する変更
- ・病原微生物学の兼任教員を1名追加。兼任講師2名にて授業に対応。
 - ・哲学と宗教の兼任講師が、本学他学部の専任教員に就任したため、千葉看護学部では、「兼任」から「兼任」に変更。
 - ・英語購読・記述、英会話Ⅰ・Ⅱを担当していた兼任講師1名（何 欣瑛）が本人都合により辞退となったため、兼任講師を新たに1名採用。
 - ・英会話Ⅲの兼任講師が本人都合により辞退となったため、新たに兼任講師を1名採用。
 - ・ICTリテラシーⅠ・Ⅱを担当する兼任講師が本人都合により辞退となったため、新たに兼任講師を1名採用。
 - ・リラクゼーション論を担当する兼任講師が本人都合により辞退となったため、新たに兼任講師を1名採用し、専任教員との2名体制とした。
 - ・クリティカルシンキングⅠに学習効果を挙げるために兼任講師を1名追加。
 - ・法改正に伴う養護教諭課程のカリキュラム変更に対応するため、科目を追加（特別支援教育の基礎）し、兼任講師を新たに1名採用。

【令和2年度】

- 専任教員に関する変更
- ・講師：齋藤尚子が本人都合により令和元年8月31日付で退職。もともと一人で担当している科目は無く、科目責任者を含めた専任教授等に変更は無いため、授業実施に問題は無い。また、後任として令和2年4月1日付で講師：伊東真理を採用。
- 兼任・兼任教員に関する変更
- ・情報通信と保健医療を担当する兼任教員が令和2年3月末で本学を退職し、且つ、引続き授業を担当するため、兼任教員に変更。
 - ・コミュニケーション概論を担当していた兼任教員が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに1名採用。
 - ・社会学を担当する兼任教員が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに1名採用。
 - ・家族社会学、ダイバーシティを担当する兼任教員が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに1名採用。
 - ・教育心理学を担当する兼任教員を1名追加採用し、教育効果を上げるため、従来の件担教員と2名で担当。
 - ・特別活動の指導法を担当する兼任教員が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに1名採用。
 - ・英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、英語購読・記述を担当する4名の教員のうち、兼任教員1名が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに1名採用。

【令和3年度】

- 専任教員に関する変更
- ・准教授：山本由子が本人都合により令和3年3月31日付で退職。後任に准教授：渡邊章子を令和3年4月1日付で採用。一人だけで担当していた科目は無く、他の教員は引き続き科目を担当するため、授業実施に問題は無い。山本が科目責任者をしてきた老年看護援助論Ⅰ、Ⅱは後任の渡邊が科目責任者となる。
 - ・講師：愛川由美子が本人都合により令和3年3月31日付で退職。後任に助教：片山健浩を令和3年4月1日付で採用。愛川一人で担当していた科目は無く、科目責任者を含めた他の教員に変更はないため、授業実施に問題は無い。
 - ・小児看護領域を担当する講師：石井まりえを令和3年3月31日付で新規採用。同領域の補充を図ったもの。
- 兼任・兼任教員に関する変更
- ・英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、英語購読・記述を担当する4名の教員のうち、兼任教員2名が本人都合により辞退となったため、兼任教員を新たに2名採用。
 - ・災害看護援助論を担当する兼任教員が本人都合により辞退となったため、兼任教員を1名採用。
 - ・体の仕組みと働きⅠ、Ⅱを担当していた兼任教員が本人都合により辞退となったため、もともと兼任教員であった高野海哉が同科目を担当。
 - ・臨床薬理学、治療学総論、疾病治療論Ⅲを担当していた兼任教員が本務勤務先の定年により辞退となったため、新たに兼任教員2名を採用。
 - ・教育原理を担当していた兼任教員が本人都合により辞退となったため、新たに兼任教員を1名採用。
 - ・学校保健Ⅰ、Ⅱを担当していた兼任教員が本人都合により辞退となったため、新たに兼任教員を1名採用。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
7	6	9	6	28	6	8	6	10	5	29	11
(4)	(4)	(6)	(2)	(16)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
8	6	10	5	29	11	8	6	10	5	29	11
[+1]	[0]	[+1]	[-1]	[+1]	[+5]	[+1]	[0]	[+1]	[-1]	[+1]	[+5]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{28} = 103.57\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{29} = 3.44\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{11}{6} = 183.33\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	小野 治子	H30.3	必修	協働実践演習	①	体調不良により就業できない旨、本人より申し出あり（H30）。			
				必修	看護学概論	①				
				必修	生涯発達ケア論	①				
				必修	看護研究	①				
				必修	基礎看護援助実習Ⅱ	①				
				必修	小児看護援助論Ⅰ	①				
				必修	小児看護援助論Ⅱ	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	齋藤 尚子	R1.8	必修	協働実践演習	①	R1年8.31付け 本人都合により辞任 (R2)			
				必修	看護学概論	①				
				必修	看護研究	①				
				必修	公衆衛生看護援助論Ⅰ	①				
				選択	公衆衛生看護援助論Ⅱ	①				
				選択	公衆衛生看護援助論Ⅲ	①				
				必修	保健指導演習	①				
				必修	地域保健活動演習	①				
				選択	公衆衛生看護学実習	①				
				必修	看護の統合実習	①				
2	准教授	山本由子	R3.3	必修	協働実践演習	①	R3年3月31日付け 本人都合により辞任 (R3)			
				必修	看護学概論	①				
				必修	生涯発達ケア論	①				
				必修	基礎看護援助方法Ⅳ	①				
				必修	看護研究	①				
				必修	チーム活動論	①				
				必修	基礎看護援助実習Ⅱ	①				
				必修	終末期看護援助論	①				
				必修	老年看護援助論Ⅰ	①				
				必修	老年看護援助論Ⅱ	①				
必修	老年・在宅看護学実習	①								
3	講師	愛川由美子	R3.3	必修	協働実践演習	①	R3年3月31日付け 本人都合により辞任 (R3)			
				必修	看護学概論	①				
				必修	看護研究	①				
				必修	精神看護援助論Ⅰ	①				
				必修	精神看護援助論Ⅱ	①				
必修	精神看護学実習	①								
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	21	科目	必修	21	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	24	科目	計	24	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
4	人	必修	29 科目	必修	29 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	32 科目	計	32 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{4}{28} = \boxed{14.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>・ 助教：小野治子 体調不良による就任辞任。元々一人で担当している科目は無く、同科目の科目責任者を含めた専任教授等に変更は無いため、授業実施に問題はありません（H30）。</p> <p>・ 講師：斎藤尚子 本人都合によりR1. 8. 31付けで辞任。元々一人で担当している科目は無く、同科目の科目責任者を含めた専任教授等に変更は無いため、授業実施に問題はありません。また、後任として令和2年4月1日付けで講師：伊東真理をR2. 4. 1付けで採用（R2）。</p> <p>・ 准教授：山本由子 本人都合により令和3年3月31日付けで辞任。後任に准教授：渡邊章子を令和3年4月1日付けで採用。一人だけで担当していた科目は無く、他の教員は引き続き科目を担当するため、授業実施に問題はありません。講師：愛川由美子が本人都合により令和3年3月31日付けで辞任。後任に助教：片山健浩を令和3年4月1日付けで採用。一人だけで担当していた科目は無く、他の教員に変更はないため、授業実施に問題はない。また、学生に対してはシラバスにて周知。学生は履修登録の前に担当教員を確認可能（R3）。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<千葉看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

東京医療保健大学千葉看護学部FD委員会規程を制定し、千葉看護学部FD委員会（教員6名）を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

前回報告時以降、月1回の委員会を開催。委員6名全員が出席。

c 委員会の審議事項等

- ・ 2020年度の委員会の活動方針の決定
- ・ 各委員の役割分担の決定
- ・ 定期FD研修会（月1回）及び集中FD研修会（夏季、春季に各1回）の開催
- ・ 千葉看護学部活動報告会の開催
- ・ 2020年度東京医療保健大学アクションプランの策定
- ・ 2018・19年度千葉看護学部FD活動報告書の作成

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 定期FD研修会：今年度はCovid-19対策のため、前期の開催は中止とし、後期に1回実施した。内容は以下の通りである。
後期：1/19（火）17:00～18:00 大学教育に求められる協働の意義や価値をあらためて共有し、成果につながる「協働」のあり方について考える。
- ・ 集中FD研修会：9月と3月に1日かけて実施。内容は以下の通りである。
夏季集中FD研修会（9/17）：『千葉看護学部の各看護学領域の教育活動を知る』（前半：各看護学領域からのメッセージ発表、後半：助教・助手・新着任教員を中心としたグループディスカッション）
春季集中FD研修会（3/12）：『学修の深化・発展を支える看護援助技術教育を考える』（前半：学部長の情報提供、後半：各看護学領域からの発表）
- ・ 2020年度活動報告会を3/12（9:30～14:30）オンラインにて開催した。招待者として、木村学長、小西全学FD・SD委員会委員長、馬場事務局長の出席があった。
- ・ 2018・19年度FD活動報告書：2020年後期に完成。各学部・学科に配布

b 実施方法

- ・ 定期FD研修会：情報提供と質疑応答。終了後に成果共有レポートの提出、全教員による内容の共有
- ・ 集中FD研修会：情報提供とグループディスカッション
終了後に成果共有レポートの提出、全教員による内容の共有

c 開催状況（教員の参加状況含む）

定期FD研修会の参加は任意であったが毎回8割以上の教員が参加し、夏季および春季集中FD研修会もほぼ全教員参加で実施した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・2020年度はCovid-19対策のため開催方法もICTを活用して行った。また、1年間のFD活動を通して千葉看護学部の全教員が領域や職位を越えて協働することの意義を考え、各領域間で教育内容や実習に関する情報共有を行うことで、千葉看護学部における教育の方向性を模索でき領域間で連携した授業づくりに発展できた。また、教員の研鑽のための必要な情報を共有できたことで、各教員の教育観や看護観を広げることができ、教員の能力拡大の一助となった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・令和3年5月1日現在、アンケートは未実施だが、今後、以下のとおり実施予定。
- ・令和3年度「学生による授業評価実施」計画
実施時期：各セメスター最終授業日（予定）
実施方法：授業評価質問用紙を配布し、その場で回収。または、ペーパーボックスへの投函により回収する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・令和3年5月1日現在、アンケートは未実施だが、今後、以下のとおり実施予定。
教員に対しては、各教員に閲覧できるように結果を報告し、授業改善等に努めていただくとともに、
学生に対しては、館内にスペースを設け、結果を掲示する。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ・ 本学学則第4条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

(注)第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。

2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。

3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

- ・ 自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。

- ・ 本学においては、平成20年度に開学後初となる自己点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめ、ホームページに公表。平成21年度以降毎年度、自己点検・評価を実施し、公表している。

- ・ 平成30年度には、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定。評価結果は平成31年4月5日にホームページに公表済。
なお、認定の期間は、平成31年4月1日から令和8年3月31日までとされている。

自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・ 令和2年度点検・評価報告書については、令和3年6月1日 公表予定。

b 公表方法

- ・ 点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認を経た後、ホームページ上に公開している。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和3年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

大学番号	大学等名称	学部等名称	学科等名称	その他名称	設置元号	設置年度	設置区分	計画区分
私立92	東京医療保健	千葉看護学部	看護学科		0平成	30年度	届出	学部の学科

担当者名 電話番号 電話番号 メールアドレス | 修業年限 平均入学率 開設年度 学生募集 令和3年度 令和3年度
千葉事務 047-495-7047-495-7chiba-jir 年 1.10倍 倍 新規入学 435 (3)

令和2年度科目変更未開講・募集停止定員超過 (学部) (学部) (学部) (学部) (学部)
0 [0.84 #REF! #REF! 12 6 28 29 29

(学部) 身 (学部) 研 (大学院) (大学院) (大学院) (大学院) (大学院) (大学院) (大学院) (大学院) (大学院)
103.57 3.44 #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF!

(教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (教職大^㉔ (專門職^㉔ (專門職^㉔
#REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF!

(專門職) (專門職) (專門職) (專門職) (專門職) (專門職) (專門職) 教員辞任 昨年度報 附帶事項
#REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! #REF! 14.28 2 0

・指摘事項の有無